

大口町歴史民俗資料館へ行こう

ほほえみプラザ3階にある、大口町歴史民俗資料館。

館内は常設・体感展示室と企画展示室に分かれていて、パネルや映像によって楽しく学ぶことができますよ。入場料は無料です。ゴールデンウィークに、ご家族で出かけられてはいかがですか？

家族で訪れてみよう

歴史民俗資料館は、平成10年、大口町伝右に複合施設としてほほえみプラザが建設され、その3階にオープンしました。東側に別棟で位置する文化財収蔵庫には、町内の皆さんからご寄贈していただいた資料を保管しています。

モットーは「家族で楽しめる資料館」。『わかりやすく、楽しく』をテーマに、誰もが気軽に。ぷらっと立ち寄れる場



▲ほほえみプラザ

所として、町内外問わずあらゆる世代の方に親しんでいただけるよう、工夫を凝らした展示をしています。

町内の子どもたちは、小学校3年生の社会科の見学で訪れていますね。



▲文化財収蔵庫

常設展と企画展

ほほえみプラザ3階でエレベーターを降りると、すぐそこは資料館。常設・体感展示室は、大口町の歴史や風土、貴重な出土品や、懐かし

ようこそ大口町歴史民俗資料館へ



西松学芸員



▲常設・体感展示室

い農村の風景や家屋、木津用水を
実際に上り下りしていた通称「木津
の曳舟」などを展示・解説。また、
平成26年に国宝の指定を受けた松江
城を築城した堀尾吉晴公に関する
コーナーや、町内に所在する戦国時
代の城跡、小口城の説明コーナーも
あります。子どもたちには、社会科
で習った大口町の歴史を目で見て体
感し、郷土の歴史や先人の暮らしに
興味を持ってもらえるような工夫が
されています。

企画展示室は、年に4回展示替え
があります。

春と冬は「端午の節句」と「ひな
まつり」。それぞれの衣装を着て家
族で写真を撮影できるコーナーは大
人気で、毎年京都から訪れる人もい
るほどです。「ひなまつり」は、2
か月の展示期間で約1200組以上

のお客さんが訪れます。貴重で珍し
い五月人形や雛人形の飾りも、その
美しさや華やかさに心奪われます。

例年、夏は子ども向け企画で、秋
は大口町の文化・歴史に関する展示
をおこないます。平成28年度の秋は、
大口町出身の武将、堀尾吉晴が築城
した松江城が国宝指定を受けたこと
を記念し、「堀尾氏の築いた松江城
と城下町」の企画展をおこないまし
た。堀尾氏が治めていた頃の貴重な
城下町の絵図（複製）や、実際に使
用されていた松江城の柱などを展示
しました。町内外から多くの人が訪
れ、国宝松江城への関心の高さが伺
えました。

学芸員さんて、どんな人？

博物館や美術館で收藏品や史料を
調査・研究し、展覧会を企画したり
一般の方にわかりやすく解説したり
する「学芸員」。大口町歴史民俗資
料館にも西松賢一郎学芸員がいます。
保育園や学校、地域の方にお話しに
出かけたりすることもあるので、出
会ったことがあるかもしれませんね。

「学芸員」というと、学者肌の気
難しいイメージを抱く方もいるかも
しれませんが、とても気さくな西松
学芸員。質問はいつでも大歓迎です。
見かけたら声をかけてみてください。

西松学芸員にインタビュー

—学芸員は資格のいる特殊な仕事。
いつ、何がきっかけでなろうと思っ
たのですか？

もともと歴史が好きで、大学も歴
史学科に進学しました。そこで、考
古学と出会い、取りつかれてしまい、
将来は歴史や文化遺産に関わる仕事
がしたいなど。大学では古墳時代の
研究をしていました。初めて群馬県
の前方後円墳を発掘した時の喜びは
今でも忘れられません。古墳時代の
葺石や埴輪が次々と出てきて、もう
楽しくて楽しくて（笑）。

—学生時代は勉強一筋ですか？

正直にいうと、学生時代はあまり
勉強せず、アルバイトに明け暮れて
いました。でも、当時から東京都美
術館や江戸東京博物館の展示解説ボ
ランティアをして、展覧会の解説の



▲南地域自治組織「南地域の文化遺産」

スキルをみがいていましたよ（笑）。
本格的に勉強に打ち込んだのは大学
院に進学してからです。

—なるほど！西松学芸員の解説は、
大人にも子どもにもわかりやすいと
評判です。そのときの経験が生かさ
れているんですね。今までの仕事の
中で、心に残っているものはありま
すか？

平成26年から南保育園との連携事
業で「郷土を愛する心を育む活動」
として、年数回、主に年長児を対象
に園周辺にある文化遺産の普及啓発
を目的に出張講座をしています。初
年度は裁断橋のお話。2年目は松江
市と姉妹都市提携した記念に、裁断
橋物語に加えて松江城と堀尾吉晴公
のお話もしました。この年は、何か
おもしろいことをしようと呼育士の
皆さんと話し合い、年少児から年長
児まで参加して堀尾跡公園のジオラ
マを作りました。大口町内の保育園
で取り組んでいる木育に合わせ、
当時建設中だった北保育園の廃材や
園児が散歩中に拾った木の葉や木の
実を利用し、立派なものができ、3
か月かけて完成した時は感慨深いも
のがありました。

昨年度は活動を始めて3年目とし
たが、年長・年中児が写真を見て「松
江城」と答えたり、「吉晴」の名前
を覚えていたりして、びっくりしま
した。小さな子供たちの心にも、郷

土を愛する心が少しずつ芽生えていくよう、これからも活動を続けていきたいと思えます。

「将来の大口町を担っていく子どもたちが郷土の歴史や文化に親しむことで、将来、よりよい町の未来を考えるきっかけとなるでしょうね。大口町の歴史の魅力はどんなところでですか？」

尾張北部は、市や町の境目に大きな川や山がなく、地域の歴史がつながっているんです。大口町を知るには、大口町周辺の市町のことも知らなくてはならず、広範囲でつながっているところにおもしろさや魅力を感じます。大口町を含む尾張北部は知れば知るほど意外な新しい発見があり、奥深いですよ。

「ただ今、企画展示室では企画展「端午の節句」が開催中です。企画展ができあがるまでの流れを教えてください。」



▲「郷土を愛する心を育む活動」でのジオラマ製作



吉野さん

中江学芸員

「端午の節句」と「ひなまつり」は、毎年恒例で開催していますが、それ以外の企画展はテーマを決めることからスタートです。常にアンテナを張り、いいなと思うテーマを探しています。大きい企画展は約1年前から展示したいものをリストアップし、外部の博物館や個人からの借用の事前交渉、大きさ・重さなどの調査を始めます。決定後、実際に借りに行くのですが、美術品専用の輸送会社に依頼し、どんな遠方でも学芸員が必ず同伴します。並行して、テーマについて勉強し、展覧会図録（パンフレット）やポスターを作成します。図録はどんな方にもわかりやすく興味をもってもらえるように工夫して作成していますので、ぜひ手に取って見ていただきたいです。

開催中の企画展「端午の節句」は、60年以上前の戦後間もない頃の貴重な五月飾りも展示されています。甲冑や陣羽織を着て写真を撮ることができる人気コーナーも開設していま

す。ゴールデンウィークにぜひご家族でお越しください。

取材にて

資料館の運営や大口町に眠る文化財の調査研究だけでなく、常日頃から、いろいろな場所で大口町の歴史や文化の魅力を解説している西松学芸員。「少しでも多くの方に、地元の魅力を知ってもらい、語り伝えてほしい」と語る目が輝いているのが印象的でした。

大口町歴史民俗資料館では、平成29年度より新しく「歴史文化教育事業」をスタート。「世代を超えた多くの方に大口町の歴史や文化遺産を知ってもらい、郷土に誇りと愛着を持ってもらうことで町外にも魅力を発信していけるようにする」という取り組みです。



▲前企画展の撤収と次の展示作業までの1か月間は、職員総出で作業をおこないます。



▲春の企画展で展示されている昭和38年の五月人形段飾り

「ご年配の方に歴史の講座をやらせていただく機会が多いのですが、地域のお地蔵さんや石碑のお話をさせていただいても、ご存じないという方が多いです。ご年配の方が知らないということは、子や孫の世代に語り継がれていくことは難しい。あらゆる世代の方に地元のことを知っていただくことが先決です。これからは資料館単独でなく、地域自治組織や保育園、小中学校、まちづくり団体などいろいろな主体と一緒に、大口町の魅力を掘り起こし、盛り立てていく活動をしていきたいです」

今回取材させていただいて、資料館が単なる町のいち公共施設ではなく、大口町の未来を創っていく大きな輪の中の一員として、まちづくりの一端を担う役割を果たしていると感じました。自分のルーツや現在立っている地盤を知り、自分が生まれ育った土地を愛するきっかけを作るために、ぜひ一度歴史民俗資料館を訪れてみてはいかがでしょうか。